

地域看護学実習の成果

山崎 洋子, 太田真里子, 山岸 春江

本研究は、講義で示した地域看護学の理論を検証し、再構築することを目的として行った地域看護学実習の成果を分析し、今後の地域看護学教育に役立てることを目的とした。地域看護学実習終了者58名の実習直後に課したレポートより「学び」と判断した短文を抽出し、内容を分類したところ、13項目に大別された。これらから、学生は、①対象の理解②地域看護の方法・技術③ヘルスケア資源と支援チームに関することを学んでおり、地域看護学の理論を検証しているといえる。また、実習では、専門職の資質について学んでいることが確認された。一方で、保健婦活動の基盤となる受け持ち地区の理解や対象の生活を整える過程への援助などについては、今後の教育方法について検討することが必要と考えられた。

キーワード：地域看護学, 地域看護学実習, 保健婦

1. 目的

本学の地域看護学教育は、2年次後期より3年次後期前半までは、地域看護学概論、地域看護活動論、地域看護方法論の講義を中心に進め、引き続き4年次前期までの期間、各看護学の領域別実習の中で地域看護学実習を3単位必修として行っている。実習は、講義で示した地域看護学の理論を検証し、再構築する上で欠かせない教育方法である。そこで、今回行った実習の成果を分析し、今後の地域看護学教育に役立てたい。

2. 方法

1) 対象

1995年度入学生5グループ58名

2) 実習の構成

(1) 実習目標

地域看護学実習の基本方針として、地域における保健婦(士)及び学校看護活動を担う養護教諭の活動を实地に体験し、生活集団を対象とした看護活動の方法とその展開に必要な技術を学び、講義で示した看護援助の理論を深めるとし、その到達目標を①地区活動の展開方法②ヘルスケアシステムを有効に機能させるための看護専門職の役割③相談的対応技術④教育的対応技術⑤家庭訪問の基本⑥学校保健活動の方法としてある。さらに、これらから、地域における看護活動の特徴を掴み、看護学研究の対象とすべき課題を明らかにするとともに、看護専門職としての自らの姿勢を明らかにすることを目指している。

(2) 実習のプログラム

地域社会の諸生活集団の中での看護活動の展開をイメージさせる場として最小単位の地方自治体の市町、保

健所、公立小・中学校を素材とする。

a. 市・町

県内の町(人口9,300人)、市(人口32,000人)で行う。住民に行政サービスとして提供される保健婦(士)活動から地域の人々の生活の営みに合わせた看護活動や家庭で展開される看護援助の方法を学ぶために、保健課業務の講義や保健事業への参加、家庭訪問を行う。直接地域に出向き、対象に対峙させ、援助を試みることで対象主体の考え方や信頼関係を作る意味を学べるよう可能な限り、最初の実習場を市町とする。

家庭訪問では、母子、成・老人一例ずつの単独訪問を実施する。訪問対象者は、学生が訪問目的を描きやすい新生児訪問や乳幼児健診未来所者、母親学級参加者、2ヵ月児訪問事後者、保健婦の継続訪問事例の中から選定し、電話予約をしておく。訪問にあたっては、安全に責任ある家庭訪問が行えるよう、事前に訪問事例の概要を学生に示し、訪問計画を立案させ、担当保健婦の助言をうけてから訪問させる。訪問後は、保健婦と教員が加わってカンファレンスを行い、訪問経過を報告し、保健婦から助言を受け、家庭訪問援助の技術について深める。

(教員の役割)

学生が、その持っている力を最大限に発揮して、住民に適切な援助を行えるよう、実習市町に同行し、指導保健婦との調整や学生への助言、指導を行う。また、家庭訪問では、訪問計画の確認や記録の指導の他に、初めて家庭に出向いて訪問援助を行ってきた学生を受け止め、学生が家庭訪問の体験を整理しやすいよう工夫する。

(記録)

家庭訪問記録票は、対象本人の欄に加え、家族についての健康状態、援助内容を記す欄を設け、本人と家族との二側面からの保健指導の柱を見失わないように工夫する。市町へ公式の記録として残すことを伝え、記録方法の基本として項目、小見出しを設け、事実か判断したことかを明確にし、簡潔にまとめるなどの点に注意し、今後の援助計画を具体的に示すようにさせている。

看護学科

(受付：1998年8月31日)

b. 保健所

県医務課から配分された3保健所で行う。住民の生活を幅広く支援している公衆衛生の第一線機関としての保健所機能や予防的活動、広域的、専門的、技術的支援を学ぶために各課業務の講義や保健事業へ参加する。指導保健婦の訪問に同行し、自ら実施した家庭訪問指導援助と比較しながら、家庭で行う看護援助について深める。訪問対象は、保健所の典型例を選定してもらい、事業の成り立ち、関連法規について具体例にそって理解させ、その中で訪問活動の果たす役割を掴む。

(教員の役割)

短期間の中で保健所の機能を理解させるために、所長、保健指導課長に実習目標を説明し、指定された期間内の保健事業を見極めながらプログラムを実習担当者と共に作る。実習最終日には保健所でカンファレンスに参加し、保健所保健婦との意見交換が円滑にいくように工夫する。実習後、地域特性に合わせて展開される公衆衛生活動や保健所保健婦の役割や機能を伝えるために、保健所ごとに異なる活動を素材に学内カンファレンスを行う。

(課題)

実習を動機づけるために事前に保健所実習課題整理用紙(課題A)を書かせ、実習初日の朝、指導保健婦に提出させる。実習期間中は、一日の学びの整理と指導保健婦とのコミュニケーションをはかることを意図して、保健所実習記録(課題B)を毎日指導保健婦に提出させる。同行家庭訪問については、保健所での家庭訪問実習記録(課題C)を記入させる。学生の保健所での学びを整理するため、最終日に保健所実習レポート(課題D)を指導保健婦に提出する。

c. 学校保健

地域の保健医療従事者や諸施設と学校保健活動を捉えやすくすることを意図して、実習日を市町と保健所の中間の一日とし、なるべく同一市町内の公立小・中学校を選定する。

(教員の役割)

限られた一日の実習が見学のみとならないよう校長、養護教諭に地域看護学実習の目的を説明し、養護教諭から説明を受けるだけでなく、クラス単位で行われる健康観察、給食、清掃、学級活動に参加させるように時程にそって養護教諭とプログラムを作り上げる。実習後、児童・生徒の健康問題を地域の健康問題として捉えやすくするために学内カンファレンスを行う。

(課題)

グループごとに事前に実習校で学びたいことを整理させ(課題E)、養護教諭に提出させる。学内カンファレンス終了後に学びを整理することと実習校での体験をふまえて具体的に児童・生徒の健康生活を守る看護職の活動を考えさせることを目的に学校保健実習記録(課題F)を課した。

(3) 学生の反応を捉える方法

学生に示した課題のうち、課題C、Fは、各実習場での学生の学びの状況を把握するためのものである。ま

た、実習直後には、レポート「地域における保健婦(士)活動の現状から考え、今後の看護学研究課題として取り上げるべきものは何か」(課題G)を課し、地域看護学の理論伝達状況を捉える。

3) データの収集、分析

課題(G)から、地域看護学の教育目標に照らして、学びと判断した記述の短文を取り出し、短文にまとめた。同じような意味を持つと解釈できる学びに分類し、その意味を示す短い語句を表現する。

3. 結果

学びの総数は70で、58名のうち2種類の学びが確認できたものは12名であった。学びの内容を表1に示す。

表1 学生の学び

<p>1 地域看護の目的 住民が地域で安心して健康に暮らせるようにすることが大切援助の最終目標は個々の価値観に沿ったよりよい生活だ</p>
<p>2 地域看護の対象 看護の対象は人間である 家族は大切な看護の対象だ 子供の問題は親の問題でもあり地域全体の問題でもある 検診では児だけではなく育児する母へのフォローが必要だ 就学児童の健康はどのように促され保障されるかが課題だ 個別と集団の両方から対象を捉えることが必要だ</p>
<p>3 地区特性に合わせた活動 地域特性に合わせて対策を立てることが地域看護の役割だ 地域独自の問題解決方法やサービスの必要性がある 健康状態や人間関係を把握し状況に適した援助が重要だ 地域に密着し生活する人々のニーズを把握することが大切 地域の特色を知りそこの保健婦の役割を研究したらよい 健康問題の解決策は多様だ ニーズに合った援助のために住民とふれあうことが大切だ 地域の住民ニーズを把握することは保健婦だけにできる</p>
<p>4 潜在ニーズの掘り起こし 地域全体にサービスが行き届くことがとても必要なことだ 保健事業はもっとPRしサービスの利用を促進するべきだ 地域住民に事業を知ってもらうことは大切だ 住民に保健婦の仕事を理解してもらうことが必要 住民の組織活動の支援により保健婦活動をアピールできる 自ら助けを求めない人にも目をむけることが重要だ</p>
<p>5 個別ケアの考え方 住民と関わるためには信頼関係が必要である 対象者への敬意をもって接していくことが必要だ 多様な体験や価値観を視野にいれた活動が看護の根本だ 相手の人生観を知ることは患者に合った看護に役立つ 本当に共感するためには生活や家族の状況の把握が必要 訪問は体全体ですることが大切だ 保健婦も看護婦も一つの看護専門職である</p>
<p>6 対象の力を引き出す援助 対象の持つ力を最大に発揮するような支援が重要だ 健康の保持増進活動を住民が自発的に行えるよう援助する 家族の保健敵機能を引き出していくのが地域の看護の役割 地域住民のセルフケア能力を向上させるための援助が必要 住民が自らの力で地域をよくしていかなければならない 対象世帯の持つ力を引き出すような距離を持つことが必要 よくなるうとする内在的なものを信じて引出すことが技術 自分の健康を自分で守れるようにするのも健康教育だ</p>

<p>7 健康づくりの視点 専門職として健康づくりの意識を浸透させる必要がある 様々な対象への健康保持増進のための援助方法の開発が必要 予防的視点から健康な人への教育的アプローチが大事だ 個々や集団に予防的に関わるのが大切だ 地域における保健婦活動の一つに予防的活動がある</p>
<p>8 ノーマライゼーションの考え方 偏見は少しずつ正しい知識を住民に広めることで改善する 住民同士が助け合いながら生活できるような活動が必要だ 愛育会という地域のつながりをどう活かすかは課題である</p>
<p>9 地域の専門職の連携 職域の特徴を生かして地域の問題に取り組む必要がある 健康やQOLの向上のために他の専門職との密な関わりが必要 保健医療福祉の情報ネットワークの早期整備が必要だ 他職種とのネットワークづくりが重要だ 地域の看護職が地域を包括する組織づくりができるとよい 地域の専門職がそれぞれの職能を考えた上での連携が大切 学校の健康問題の解決方法を追求する必要がある 学校も地域の情報提供の場として機能していく必要がある 地域・学校・病院がお互い長所を生かした連携体制が必要だ</p>
<p>10 ケアシステムの中の保健婦の役割 保健婦は各機関と連携を図り個々の状況に応じ体制をつくる 必要なサービスと専門職とをコーディネートするのも役割だ 児童の健康問題は家族訪問で対応できる 保健婦は対象を広い視点で長期的専門的に見られる職種だ あらゆる人を活用して住民の健康を守っていく必要がある 生活を支えるための保健婦の可能な援助を明らかにしたい 社会資源や住民を活用するための活動が介護支援につながる</p>
<p>11 専門職としての責任制 保健婦の社会的役割を周囲に理解してもらわなければならない 保健婦の必要性の主張のために実践を資料に残すことは大切</p>
<p>12 保健婦の資質 保健婦に求められる看護の能力や技術の質の向上が常に必要 相談したいと住民に思わせる看護専門職の要素は何なのか 働く場所によらず専門職の責任、視点などを大切にしたい</p>
<p>13 サービスのあり方 受け手側から見たよりよいサービスを提供する必要がある 受け手側に満足のいくサービスをいかに作り活用するか 地域の看護職は常によりよいサービスを提供すべきだ サービス利用の効果と判定方法が対象の生活向上に貢献する</p>

4. 考 察

講義で示した地域看護学の理論が、実習でどのように検証されたかを考察する。

1) 対象理解に関する学び

地域看護の対象は、一定地域に生活するすべての人々である。講義では、保健婦の受け持ち地区での活動と共に、世帯を単位とした対象理解の原則や地区の成り立ちや住民の生活意識や健康に関する行動を捉える視点を伝えている。学生は、「家族は大切な看護の対象だ」と、本人だけでなく家族を看護の対象と捉えていた。また、健康レベルの高い人も「健康な人への教育的アプローチが大事だ」と看護の対象と位置づけ、さらに、「自ら助けを求めない人にも目をむけるべきだ」と地域で生活する様々な人が援助の対象であることを理解していた。また、「地域に密着し生活する人々のニーズを把握することが大切」と述べ、生活の営みにそった対象理解の必要

性を確認していた。このことから、講義で示した地域看護の対象は実習により、より明確となり理解が深められているといえるが、一人の保健婦の「受け持ち地区の全住民」が対象であるとの記述は見られず、今後の教育方法の課題とされる。

2) 地域看護の方法・技術に関する学び

講義では、住民主体の考え方や住民の健康意識の向上を目指す活動目標と共に家族単位の看護の展開方法や健康相談や健康教育の方法や技術、対象別保健指導の方法、技術について伝えている。

対象に合わせて方法・技術を適用するときに重視すべき要素が「個別のケアの考え方」や「対象の力を引き出す援助」で具体的に表現されているといえる。看護の展開に必要なものとして「相手の人生観を知ること」や「生活や家族の状況の把握」を挙げており、地域社会のなかで直接的に学習させる機会を作ったことによって人間生活そのものの意味、さらにそれらの個性性、多様性など学生に身を持って理解させることができたといえる。

住民の主体的な問題解決を促す方法として、「よくなるとうとする内在的なものを信じて引き出すことが技術だ」、「家族の保健的機能を引き出していくのが地域看護の役割だ」が挙げられ、またその手段として「世帯の持つ力を引き出すような距離を保つこと」を挙げて、具体的な方法について理解している者もいた。

「地域独自の問題解決方法」、「地域特性に合わせて対策を立てていく」は、地域を基盤にした活動を進める時に重視すべき点を理解していると考えられる。これは学生が地域社会や多くの住民との交流過程で自らつかんだものであり、住民の生活の営みをふまえた活動の必要性を学んでいるといえる。さらに、ニーズを把握する方法や潜在ニーズの掘り起こしのための手段を記述し、講義で示した地域看護の方法や技術を確認している。

しかし、地域の看護専門職として、対象の生活を整える過程への援助方法については具体的な記述がなく、最後に課題を残している。

3) ヘルスケア資源と支援チームづくりに関する学び

講義では、資源提供活動として、公的な保健事業を住民が利用できる保健サービス資源に整えていく活動を伝えている。また、ヘルスケアチームづくりにおいては、非専門職も含めた開放型のシステムを柱に、具体的方法や保健婦の役割について伝えている。

学生は資源提供活動については、保健事業の成り立ちや目的を理解し、その必要性を実感していたが、必要の人に十分に浸透させていくことについては理解にいたっていなかった。

専門職間の連携については、「地域の専門職がそれぞれの職能を考えた上での連携が必要だ」とそれぞれの職能の相互理解を基盤とした連携の必要性を確認している。さらに、「あらゆる人を活用して住民の健康を守っていく必要がある」と住民を含めたケアチームづくりの

必要性を確認している。この基盤として、「住民同士が助け合いながら生活できるような」ノーマライゼーションの考え方がある。

また、ヘルスケアチーム内での保健婦のコーディネーターの役割や機能を認識し、さらに、「受け手から見たよりよいサービス」をつくりだして提供し、評価するといった看護サービス提供側からの評価のみならず、受領者側の評価の重要性に気づいており、看護の質の管理に結びつくものであろう。

4) 専門職の資質・姿勢に関する学び

学生は、住民の保健婦に寄せる信頼を実感し、「相談したいと住民に思わせる看護専門職の要素は、何なのか」を今後の研究課題として挙げ、「保健婦に求められる看護の能力や技術の質の向上が常に必要だ」と信頼に応えられる専門職として常に技術の研鑽や工夫が必要なことを理解していた。これは、実習でベテランの保健婦に出会い、その保健指導場面を見聞きする中で得られた成果であり、学生自身が専門性を育む手がかりを得るための機会といえる。

5. 結 論

地域看護学実習で、学生は対象理解、地域看護方法・技術、ヘルスケア資源と支援チームづくりについての講義で示された地域看護学の理論を検証し、さらに専門職の資質・姿勢について学んでいると確認できた。今後は保健婦の活動の基盤となる受け持ち地区の理解、対象の生活を整える過程への援助を明確に伝える教育方法について検討することが必要である。

参考文献

- 1) 平山朝子, 宮地文子編 (1995) 公衆衛生看護学総論 1, 公衆衛生看護学体系第2版. 日本看護協会出版会
- 2) 佐藤紀子, 遠藤寛子他 (1998) 地区活動理論の理解を促すための地区診断技法を用いた実習の効果, 日本公衆衛生看護教育研究会誌, 8(1):14-20.
- 3) 佐藤由美, 井出成美 (1995) 訪問看護・在宅ケアに関する授業の展開, 臨地実習の方法 Quality Nursing, 1(10):10-15

Abstract

Effects of Community Health Nursing Practice

Yoko YAMAZAKI, Mariko OHTA and Harue YAMAGISHI

The purpose of this study was to clarify the students' understanding concerning the theory of community health nursing by analyzing their 58 practice reports.

We set up the practice at local authorities, health centers, public elementary and junior high schools.

From students' reports, 70 descriptions were found to be as learning concerning the community health nursing and were classified into 13 categories. These categories signified the theory of community health nursing as follows.

- 1) Understanding of clients
- 2) Methods and skills of community health nursing
- 3) Development of health care resources and promoting health care support team

In addition, students learned about nurses' professional ability.